

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和元年7月31日※1
(前回公表年月日:平成30年7月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																
専門学校トヨタ東京自動車大学校		昭和51年6月1日	上田 博之		〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211																
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																
学校法人トヨタ東京整備学園		昭和63年10月20日	横山 裕行		〒193-0944 東京都八王子市館町2193番地 (電話) 042-663-3211																
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士															
工業	工業専門課程	スマートモビリティ科			平成28年文部科学省告示第18号																
学科の目的	サービススタッフとして、環境対応車等の「未来」を見据えた次世代のサービスに対応できる、幅広い知識や技能、教養を身に付けるなど実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。																				
認定年月日	平成29年2月24日																				
修業年限	昼夜	講義		演習	実習	実験	実技														
2年	昼夜	2100時間		720時間	200時間	1180時間	0時間	0時間													
	昼間	単位時間																			
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
80人		58人	4人	6人	5人	11人															
学期制度	■1学期:4月1日～7月31日 ■2学期:8月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について試験を実施 合格点は70点以上																
長期休み	■夏 季:7月21日～8月31日 ■冬 季:12月25日～1月7日 ■春 季:3月25日～4月5日			卒業・進級条件	授業科目は、全科目を必修とし、欠席、遅刻、早退した場合は、原則当該時間数の補講を実施。 全ての試験に合格し、必要な課程を終了した者を進級・卒業認定																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任、課長による面談。 保護者と連絡を密に取り連携。			課外活動	■課外活動の種類 地域清掃活動への参加 クラスごとに地域清掃の実施 めじろ台祭り神輿担ぎ モータースポーツ活動への積極的参加 ■サークル活動: 有																
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) トヨタ自動車 トヨタ販売店各社 ダイハツ販売店各社 デンソーソリューション 等			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																
	■就職指導内容 履歴書、面接指導				<table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>第二種電気工事士</td><td>③</td><td>32人</td><td>32人</td></tr><tr><td>ジョブパス2級</td><td>③</td><td>32人</td><td>32人</td></tr><tr><td>学士</td><td>③</td><td>32人</td><td>32人</td></tr></tbody></table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	第二種電気工事士	③	32人	32人	ジョブパス2級	③	32人	32人	学士	③
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																		
第二種電気工事士	③	32人	32人																		
ジョブパス2級	③	32人	32人																		
学士	③	32人	32人																		
		■卒業者数 : 32 人 ■就職希望者数 : 31 人 ■就職者数 : 31 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																
		■その他			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																
		(平成 30年度卒業生に関する令和元年5月1日 時点の情報)																			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中途率 1.7 % 平成30年4月1日時点において、在学者68名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者67名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更		■中退防止・中退者支援のための取組 担任による面談や家庭への連絡による連携。入学後早期にコミュニケーション向上プログラムの実施。校内に相談室の設置。 教員の心理学研修による学生対応力の向上。中退防止・早期退職防止に対応する授業の実施。																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																				
当該学科のホームページURL	https://www.toyota-jaec.ac.jp																				

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
環境対応車等、次世代自動車の最新の動向をしっかりと見据え、職業に必要となる最新の知識・技術を企業・業界団体等と連携し、職業に必要となる最新の知識・技術をまた、トヨタ自動車の社内検定制度も含んだ教育課程編成を行い実践的かつ専門的な職業教育を実施する。
また、卒業生の就職先企業への訪問を実施すると共に就職先企業へアンケートを実施し、職場からの意見等を教育課程への反映させるための検討を教育課程編成委員会で実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会規定により内外から教育課程編成委員を選出して、教育課程編成委員会を開催し、最新の自動車業界の動向を基に教育課程案を作成して、教職員会で検討を行い、校長はこれらを尊重した上で判断し、学校教育に展開するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
野見山 芳幸	トヨタ自動車株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
有山 仁	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
安藤 満	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
橋本 工	トヨタ西東京カローラ株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
在田 泰彦	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	③
金子 俊明	東京都自動車振興会 教育部講習課	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	①
上田 博之	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
高柳 尚之	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
若林 良弘	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
太田 靖也	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
末次 真一郎	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
戸賀沢 愛彦	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
岡谷 広徳	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
望月 邦和	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	
藤川 龍彦	専門学校トヨタ東京自動車大学校	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年9月19日 13:30～15:30

第2回 平成31年3月27日 13:30～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

企業委員より、トヨタセーフティセンス(TSS)のクリアランスソナーの調整作業の必要性の話があった。スマモ科2年次の3学期に「新機構研究」として学科授業と調整作業の実技を実施。

HV、PHV、FCVの試乗についても、1年次の1学期「HVシステム」の授業に取り入れ、各車の違い、走行特徴などを学生に体感してもらい、グループでまとめを発表し理解を深めている。

卒業生の就職先は自動車業界全般であり、自動車技術の進歩は目覚しく、それに対応すべく企業と密接な連携を取り、実践の場で必要となる知識・技術を修得できる実習・演習プログラムを作成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

科目：車両整備Ⅰに於いて、自動車用タイヤに空気を充填する作業は、高圧の空気を取り扱うことから、危険が伴い、死亡事故等が発生しないように、H2.10.1から「特別教育を必要とする業務」に義務付けられている。そこで、企業と連携し、この特別教育を実施して頂き、修了試験を行い、企業の方に評価をして頂き、学校側が最終的には評価を行う。

科目：スマート工学Ⅰに於いて、カーナビ、ITS、HEMS、スマートコミュニティについて連携する企業より、講師を派遣して頂き、授業を行った。評価については、各項目に於いて、60%以上の理解がある事を、企業との打ち合わせ時に行い、その評価は企業の方にし頂き、学校側が最終的な評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
車両整備Ⅰ (1年1学期)	空気充填士資格取得講習	日本グッドイヤー株式会社
車両整備Ⅰ (1年1学期)	圧着端子講習	ヒーロー電機株式会社
スマート工学Ⅰ (2年1学期)	カーナビ、ITS、HEMSと スマートコミュニティについて学ぶ	株式会社デンソーソリューション

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教職員の能力開発及び資質の向上等を組織的に取り組み事を教職員研修規定で定め、教員は、業務経験や能力、担当科目等に応じ、企業と連携して専門分野における実務に関する知識、技術及び技能等並びに、安全衛生及び指導力等の修得・向上を行い、部単位研修においては、「人材育成体系」に従って展開する。

また、当校は、自動車に関する学科のみであるので、教員に対する研修等に関しては、教育部全体のバランスを考慮して計画的に実施。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トヨタ技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部)

期間:8月27～29日(3日間) 対象:ハイブリッド車について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名)

内容:自動車技術の知識・技術の修得(ハイブリッド車の安全対策と故障、故障探求)

研修名「販売店研修Ⅱ」(連携企業等:トヨタ販売店)

期間:7月18日～22日(5日間) 対象:入校後5年～10年程度の職員(1級自動車科1名、自動車整備科3名)

内容:販売店業務の確認、整備作業体験

研修名「海外研修Ⅲ」(連携企業等:Vertex Sports,Inc)

期間:7月15日～30日(15日間) 対象:正教員2級以上(自動車整備科1名)

内容:海外にてモータースポーツの見聞を広める

研修名「新型スーパー商品勉強会」(連携企業等:神奈川トヨタ自動車株式会社)

期間:6月12日(1日間) 対象:正教員以上(自動車整備科2名、1級自動車科1名、スマートモビリティ科1名)

内容:新型車スーパーの商品知識の習得(新機構の機能説明を含む)

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会)

期間:8月1日～3日(4日間) 対象:入校2～3年次に全員受講(自動車整備科2名)

内容:コーチング、コミュニケーションの基礎、問題解決手法を習得

研修名「コミュニケーション研修(上級、応用)」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)

期間:10月4日、9日(2日間) 対象:正教員(自動車整備科1名)

内容:コミュニケーション能力向上、クレーム対応

研修名「コーチング研修」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)

期間:8月6、7日(2日間) 対象:上級教員(自動車整備科1名)

内容:人が持っている能力を最大限に発揮させるための手法

研修名「企業派遣研修」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)

期間:7月24日～26日(3日間) 対象:上級教員(1級自動車科1名、スマートモビリティ科1名)

内容:民間企業の経営感覚・組織の役割等を体験し、組織の活性化を図る

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トヨタ技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部)
期間:6月4～6日(3日間) 対象:多重通信について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名)
内容:自動車技術の知識・技術の修得(多重通信)

研修名「トヨタ技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部)
期間:7月8～10日(3日間) 対象:エンジン分野について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名)
内容:自動車技術の知識・技術の修得(エンジン分野)

研修名「トヨタ技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部)
期間:7月30～8月1日(3日間) 対象:エレキ分野について教える科目担当(1級自動車科2名、自動車整備科1名)
内容:自動車技術の知識・技術の修得(エレキ分野)

研修名「販売店研修Ⅱ」(連携企業等:トヨタ販売店)
期間:7月24日～8月2日(7日間) 対象:入校後5年～10年程度の職員(1級自動車科1名、自動車整備科3名)
内容:販売店業務の確認、整備作業体験

研修名「海外研修Ⅲ」(連携企業等:Vertex Sports,Inc)
期間:7月14日～29日(15日間) 対象:正教員2級以上(自動車整備科1名)
内容:海外にてモータースポーツの見聞を広める

研修名「トヨタ技術研修」(連携企業等:トヨタ自動車 サービス技術部)
期間:9月頃(3日間) 対象:内容によって検討
内容:自動車技術の知識・技術の修得

研修名「販売店研修Ⅱ」(連携企業等:トヨタ販売店)
期間:7月頃(約1週間) 対象:入校後5年～10年程度の職員
内容:販売店業務の確認、整備作業体験

研修名「海外研修Ⅲ」(連携企業等:Vertex Sports,Inc)
期間:7月14日～29日(15日間) 対象:正教員2級以上
内容:海外にてモータースポーツの見聞を広める

研修名「S-GTメカニック体験」(連携企業等:株式会社セルモ)
期間:8月(3日間) 対象:入校4年位までの若手教員
内容:レースメカニック体験を通じた、現場体験

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教職員夏季研修会」(連携企業等:全国自動車大学校・整備専門学校協会)
期間:7月30日～8月2日(4日間) 対象:入校2～3年次に全員受講
内容:コーチング、コミュニケーションの基礎、問題解決手法を習得

研修名「コミュニケーション研修(初級)」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)
期間:5月14日(1日間) 対象:入校1年目を目安
内容:ビジネスマナーの基本を習得

研修名「コミュニケーション研修(上級、応用)」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)
期間:11月9日(1日間) 対象:正教員
内容:コミュニケーション能力向上、クレーム対応

研修名「コーチング研修」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)
期間:8月8、9日(2日間) 対象:上級教員
内容:人が持っている能力を最大限に発揮させるための手法

研修名「企業派遣研修」(連携企業等:公益法人東京都私学財団)
期間:7月24日～8月26日(3日間) 対象:上級教員
内容:民間企業の経営感覚・組織の役割等を体験し、組織の活性化を図る

研修名「留学生に対する生活指導等講習会」(連携企業等:専修学校教育振興会)
期間:6月25日(1日) 対象:上級教員
内容:専門学校における留学生の受け入れに関する知識の修得

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、自動車業界関係者、地域住民、卒業生を含めた学校関係者評価委員会を組織して、それぞれの立場から教育活動、学校運営等の状況について評価を行い、意見を交わし、その結果を教職員会で検討を行い、次年度以降の改善・改革活動につなげる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	運営方針・事業計画・運営組織・人事・給与制度・意思決定システム
(3) 教育活動	教育方法・評価等・成績評価・単位認定等・資格・免許の取得体制・教員・教員組織
(4) 学修成果	就職率・資格・免許の取得率・卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路・中途退学への対応・学生相談・保護者への対応・卒業生
(6) 教育環境	施設設備等・学外実習等・防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動・入学選考・学納金
(8) 財務	財務基盤・予算・収支計画・監査・財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	関係法令・設置基準等の遵守・個人情報保護・学校評価・教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

クルマへの関心、興味を持ってもらいたいとの意見があり、クルマ好き教育の一環として、電動レーシングカート(ERK)の整備方法、電気回路の勉強、実際に走行してのモーター出力特性の理解など、楽しみながら学習を実施。(H30.4.20) コミュニケーションと取れる人材の育成においては、学生フォーミュラ活動(2年次)に、スポンサー募集や、部品の調達などで、色々な企業に連絡、交渉をすることで、目上の方との話し方や、メールのやり取りなどを学習(H30.4~9)

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
松野 来	トヨタ自動車株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員
中原 隆雄	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
林田 英樹	ネットトヨタ多摩株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
雑賀 政之	トヨタモビリティ東京株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
薄井 紀彦	横浜トヨペット株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	企業委員・卒業生
愛甲 彰人	館町 町会長	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	地域
安藤 俊明	トヨタ西東京カローラ株式会社	令和元年4月1日～令和2年3月31日(1年)	保護者・卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <https://www.toyota-jaec.ac.jp/>

公表時期: 30年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

自動車の技術進歩は目覚しくそれに対応するべく最新の技術、情報等の意見を収集するためには、就職先企業との連携は必要不可欠なものであり、情報提供をすることにより、当校の学校運営、教育への取り組み等を理解してもらうことにより、意見を頂き改善を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、校長名、教育スローガン、所在地
(2) 各学科等の教育	各学科の目標、取得可能資格、定員、カリキュラム
(3) 教職員	職員組織、全職員数、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援、就職活動、就職実績
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ、クラブ活動、年間行事予定
(6) 学生の生活支援	学生寮、提携マンション
(7) 学生納付金・修学支援	学費、奨学金、
(8) 学校の財務	資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告
(10) 国際連携の状況	学校HPの他言語(英語、中国語、韓国語、ミャンマー語)
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.toyota-jaec.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程スマートモビリティ科) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			電気工学	自動車で一般に使われる直流だけでなく電磁気や交流理論などについて、講義だけでなく実際の測定や実験によって理解を深める	1 ①	36		○		△	○		○	○	
○			基礎工学	高校の物理・化学の復習から、工学的な考え方を身につけるために機械工学の基礎を学ぶ	1 ①	54		○			○		○		
○			HVシステム概論	ハイブリッド車の構造や作動について、講義だけでなく実車を使って体験し理解を深める	1 ①	72		○		△	○		○		
○			車両整備Ⅰ	定期点検の復習・空気充填士資格取得・圧着端子講習	1 ①	54		△			○		○		○
○			自動車産業研究Ⅰ	自動車産業の歴史と現状	1 ①	14		○			○		○	○	
○			営業工場管理Ⅰ	ディーラー業務とビジネス検定2級	1 ①	76		○	△		○			○	
○			電動システム	モーター、バッテリー、インバータなど、電動車両の基本要素の構造作動を学ぶ	1 ②	65		○		△	○		○	○	
○			機械要素	ベアリング、ねじ、歯車など機械を構成する基本要素について学習する	1 ②	36		○			○		○		
○			基礎製図	製図とは何か、線の意味や役割、立体を平面に表したり平面図を立体として認識するための基本的な考え方を学び、実際に簡単な図面を描けるように練習する	1 ②	22		△			○	○		○	
○			HVシステム演習Ⅰ	ハイブリッド車のトラブルシュートの方法と、実践	1 ②	112		△			○	○		○	
○			電気工事士演習	第2種電気工事士試験取得のための演習	1 ②	164		○		△	○		○	○	
○			自動車新機構Ⅰ	カーナビの取付作業と、CAN通信の基礎	1 ②	45		△			○	○		○	
○			問題解決手法Ⅰ	トヨタの問題解決手法の基礎と、身近な問題解決	1 ②	14		○	△		○		○		
○			営業工場管理Ⅱ	工場経営の基礎	1 ②	45		○			○		○	○	
○			エネルギー工学	国内外のエネルギー情勢と、解決のための対策の考え方や取組の現状について	1 ③	29		○			○		○		
○			電動車両研究Ⅰ	電気自動車の構造や使い方、製作に当たっての基礎的な方法や法令について	1 ③	29		○			○		○		

○	材料工学Ⅰ	機械材料の基礎と、材料力学の考え方について学ぶ	1 ③	70	○	○	○				
○	機械設計Ⅰ	基礎製図の知識を生かして、車両設計の基礎をと、CADの基本操作を学ぶ	1 ③	29	△	○	○	○	○		
○	車両整備Ⅱ	24か月点検作業と、車検整備	1 ③	54	△	○	○	○			
○	HVシステム演習Ⅱ	ハイブリッド車の高度な故障探求	2 ①	65	△	○	○	○			
○	機械設計Ⅱ	3D CADを使って車両の設計と製作を行う	2 ①	211	△	△	○	○	○	○	
○	スマート工学Ⅰ	環境マネジメントシステム(EA21)とITSやHEMSなどのスマート社会の構成要素の基礎を学ぶ	2 ①	43	○	△	△	○	○	○	○
○	自動車整備	振動、騒音の発生原因の探求とその対策について学ぶ	2 ①	61	△	○	○	○			
○	材料工学Ⅱ	自動車の板金塗装に関わる基礎知識と、見積もりについて学ぶ	2 ①	43	○	△	○	○			
○	問題解決手法Ⅱ	身の回りの問題を見つけて手法に則って解決し、その過程を発表する	2 ①	18	△	○	○	○			
○	スマート工学Ⅱ	エネルギー工学やスマート工学Ⅰの知識を用いて、今後の「スマート社会について」検討する	2 ②	40	△	○	○	○			
○	自動車新機構Ⅱ	PHVやFCV、自動ブレーキなどの自動車の最新の機構について学ぶ	2 ②	86	○	△	○	○			
○	トレーナ実習	1年生の「実習授業」を計画して実施し、お互いに評価を行う	2 ②	106	△	△	○	○	○		
○	インターンシップ	内定企業等で実務実習を行う	2 ②	155	△	○	○				
○	自動車産業研究Ⅱ	現在の自動車産業の実態と、これからの自動車業界について学ぶ	2 ②	13	○		○	○	○	○	
○	卒業研究	グループ(2~4名)に分かれて、研究テーマについて研究を行う	2 ② ③	198			○	○	○		
○	卒業研究発表	卒業研究についての発表会を企画、準備して「卒業研究発表会」行う	2 ③	50		○	○	○			
○	一般教養	各種展示会等を見学することにより、新技術の収集 自動車関連イベントを企画、運営を行う	1 2 通年	211	△	○	○	○			
合計			33 科目		2 3 5 6 時間(単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
・全ての科目の定期試験において6割以上を取り、欠席遅刻に関しては補講を行う。 ・大学併修で学士を取得する。 (留意事項)	1 学年の学期区分	3 期	
	1 学期の授業期間	1 4 週	

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。